

事例3 つまずきの背景に迫る事例

○学年 知的障害特別支援学校（中学部2年）

○指導内容及び指導の形態 自立活動

○事例のポイント

- ①流れ図を生かしてオーダーメイドの年間指導計画を立てる。
- ②安心して取り組むことができる授業展開の構成を工夫する。
- ③自分の良さに気付き、達成感や満足感を得られる課題設定を工夫する。
- ④得意な力、苦手な力を知り、自己理解を深める対話を工夫する。
- ⑤ICT端末を用いた教材・教具の工夫や学習環境の整備を行う。

1 主題名 「身体・聞く力・見る力のトレーニングをがんばろう」

2 主題設定の理由

(1) 生徒の実態

対象生徒（1名）は、知的障害を主障害としている。人懐こく、慣れた友だちや教員に対して、励ましたり、気遣ったりすることができる。そして、規律を守り、決められたことはその通りにやろうとする真面目な性格である。そのため、うまくいかない時は自分を責めたり、がんばりすぎて疲れてしまったりすることが多い。会話だけで理解したり、人の名前を覚えたり、国語の読み取りが得意だったり、できることが多く聴覚優位の傾向が見られる。

行動面では、ダンスやマラソンなど、身体全体を使うこと（粗大運動）は好むが、制服のリボンを結んだり、ボタンを留めたりといった手先の器用さを求めること（微細運動）は苦手である。また、距離感がつかめず、ぶつかったり、転んだりする様子が見られる。学習面では、自分の気持ちを言葉にして書いたり伝えたりすることは得意だが、音読になると行を飛ばして読んだり、どこを読んでいるかわからなくなってしまったりする。また、国語では書いたり写したりすることに時間がかかり、体育ではボールを受け取れないなど、球技全般が苦手である。得意なことがある一方で、苦手なことになると、固まってしまう、集団から遅れてしまったりすることがある。そのような経験を積み重ねることで、自己肯定感が低くなり、「私はできない。」と自信を失うような発言も見られる。以上のことから、つまずきの背景を探り、それに迫る活動を設定した。

(2) 主題について

本主題では、「1. 身体のトレーニング 2. 聞く力のトレーニング 3. 見る力のトレーニング」の3つの活動を設定した。「身体のトレーニング」は、微細運動の苦手さ、ぶつかったり、転んだりする実態から、固有感覚（ボディイメージ、ぎこちなさ）のつまずきが考えられる。このつまずきの背景に迫る活動として、バランスボールやトランポリンなど粗大運動を行うことで、微細運動の向上をねらった。「見る力のトレーニング」は、音読の読み飛ばしや書くことに時間がかかること、球技が苦手な実態から、視線をジャンプさせる動き（跳躍性眼球運動）のつまずきが考えられる。このつまずきの背景に迫る活動としてビジョントレーニングを行い、頭を動かさず眼だけを上下左右に動かしたり、ランダムに書かれた文字を縦に読んだり、横に読んだりして、視線をスムーズに移動する課題に取り組んだ。これらのトレーニングは苦手さに焦点を当てた活動である。そのため、聴覚優位な本生徒が得意でありかつ好む活動である「聞く力のトレーニング」を取り入れ、苦手さだけでなく、得意なことも伸ばしていけるような活動も取り入れた。

(3) 指導・支援について

「身体のトレーニング」は、身体を動かすことを好む本生徒が取り組みやすい活動であるため、授業の初めに取り入れた。好んで取り組む一方で、手本と同じように動かすことは苦手であるため、できる動きは自分で取り組み、難しい動きは教員と一緒にやるなど、取り組みやすい工夫を行った。「聞く力のトレーニング」は得意な活動であるため、簡単すぎず難しすぎない難易度に設定し、自分で正しく聞き取ったり、直したりして取り組むことができる課題を設定した。好きな「身体のトレーニング」と、得意な「聞く力のトレーニング」を十分に行い、安心して取り組む気持ちになった後に、最も苦手である「見る力のトレーニング」を行った。本生徒は、苦手なことやできないことは悪いことと認識しているところがある。そのため、やり方を変えたり、補助

具を使ったりすることに強い拒否感があった。失敗することに強い不安があるため、少しでも不安な要素があると、「お腹が痛いから」と言って活動を始める前に拒否してしまい、活動から逸脱してしまうという悪循環になっていた。そのため1学期は、「ドキドキするね。」と言葉をかけ、不安な気持ちに寄り添うようにした。そして、逸脱してしまう前に、「先生と一緒にやろう。」と伝え、教員と一緒に取り組み、「一緒にできたね。」と取り組めたことを大いに称賛した。2学期は、手本を見ながら、できることは自分で取り組めるようにし、「一人でできたね。」と称賛するようにした。そして、やり方の選択肢を示し、「このやり方だと正しくできるね。」「さっきのやり方より、このやり方の方があっているね。」と本生徒にあった方法を見つけて示し、取り組むようにした。1学期は、「私は何でもできるよ。」と苦手さを受け入れることが難しかったが、2学期は教員が提案した方法を試してみても、「この方がやりやすい。」と発言するようになった。教員の提案した方法を受け入れることができるようになると、補助具等代替手段を活用することにも抵抗が軽減した。できる楽しさを感じ始めると、始業前に自分から机を活動場所に持ってくるなど、授業に対して前向きな姿が見られるようになった。さらに、大きな行事の前に、「今日は緊張しているから、活動を減らして行事に備えましょう。」と伝えると受け入れることができるようになった。これは、決められたことはやらないと気が済まない本生徒にとって、大きな変容だった。このようなやりとりを通して、これまで固まっていたり、逸脱してしまったりすることを「どうしてあの時怒ったり泣いたりしたのだろう。」と教員に話すようにもなった。教員から、「こういう苦手さがあるかもしれないが、こうすればできるようになった。」と伝えると納得することができた。そして、「苦手なことにぶつかってしまったら、こうしてほしい。」と自分でこういう支援があればできるという言葉に表せるようになった。この授業は、つまずきを克服するためにどのようなことが必要か、自分を知るきっかけとなった。この授業をきっかけに自己理解を深めていき、生活のあらゆる場面につなげていきたい。そして、将来社会の一員として参加していく時に、学生生活の成功体験が生かされるよう、中学部段階でできることに取り組んでいきたい。

3 生徒の実態 ※流れ図参照

4 目標

- (1) 身体のトレーニングでは、手本を見て自分で取り組んだり、教員と一緒に取り組んだりすることができる。
 - 〈2 心理的な安定(1) 身体の動き(5)〉
- (2) 聞く力のトレーニングでは、自分で誤りに気付いたり、正しく直したりすることができる。
 - 〈3 人間関係の形成(3) コミュニケーション(3)〉
- (3) 自分の苦手なところを受け入れ、別の方法や代替手段の活用を受け入れることができる。
 - 〈4 環境の把握(2)(4) コミュニケーション(3)〉

事例のポイント①
得意な活動は自分で、苦手な活動は教員と一緒にできるようにしていく年間の指導計画。

5 指導計画 (26 時間扱い)

		身体のトレーニング	聞く力のトレーニング	見る力のトレーニング	授業時数
一学期	内容	【ボール体操】 中くらいのボールを持って、手本の通りに動かす活動	【何の音でしょう】 聞こえてきた音に合う絵に○をつける活動	【眼のストレッチ】 目標物を動かし、視線をスムーズに動かす練習 【線めいろ】 いくつもの交差した線を、指、鉛筆、眼だけでなぞる課題	8
	目標	教員と一緒に、活動に取り組むことができる。	音に合う正しい絵を自分で選ぶことができる。	教員が提案した方法を受け入れることができる。	

二学期	内容	【バランスボール体操】 バランスボールに乗ったり、持ったりして、手本と同じ動きをする活動	【音はいくつ】 聞こえてくる楽器の音の数だけ○を書く活動	【眼のストレッチ】 【平仮名ランダム読み】 ランダムに書かれた平仮名を縦/横に読んだり、決められた単語を見つけたりする課題	8/10 (本時)
	目標	手本を見ながら、取り組むことができる。	指示された楽器の音の数を、正しく数えることができる。	自分にあった方法を教員と一緒に見つけて、取り組むことができる。	
三学期	内容	【トランポリンジャンプ】 手をつないで跳んだり、ハイタッチしたり、床に着地したりする活動	【お話のどこが変】 話を聞いて、話の変な部分を正しく直す課題	【眼のストレッチ】 【点つなぎ】 見本と同じように点をつないで図形を描く課題	8
	目標	教員から指示された動きをすることができる。	文章の誤りに気付き、正しい文章に直すことができる。	自分にあった方法で、取り組むことができる。	

特支編成要領P25～ 指導計画作成上の留意事項(1)(7)(12)

6 本時の構成 (16/26)



(1) 本時の目標

① 個人目標

目 標	
A 2年	<ul style="list-style-type: none"> ・身体トレーニングでは、手本を見ながら、活動に取り組むことができる。 ・聞く力のトレーニングでは、音の数を正しく数えることができる。 ・見る力のトレーニングでは、自分にあった方法を教員と一緒に見つけて取り組むことができる。

(2) 展開

配時	学習活動	指導上の留意点 (※指導の手立て *評価の観点) ○生徒の活動 ◎予想される生徒の反応 □指導者の主な指示、発問	備考
3分	1 あいさつをし、やることを確認する。	<p>□「姿勢を正して、挨拶をしましょう。」</p> <p>○生徒の挨拶で学習を始め、「1. 身体トレーニング 2. 聞く力のトレーニング 3. 見る力のトレーニング」と書かれたスケジュールボードを見て、授業への見通しをもつ。</p> <p>◎「ドキドキするところはある？」と聞くと、「バランスボールできるかな」と言われる。具体的に聞くと、「足を伸ばしたり曲げたりするのが怖い。」と言われる。</p> <p>□「バランスボールの何がドキドキする？」と聞き、活動内容のどの部分が不安なのかを聞く。「その場面になったら、先生が手をつないで、一緒にやろう。」と誘い、活動内容への不安を軽減する。</p>	事例のポイント② 授業のスケジュールを確認し、どこが不安なのか言語化することで、安心感をもって授業に取り組み始めることができる。

<p>10分</p>	<p>2 身体トレーニングをする。 【バランスボール体操】</p>	<p>□「バランスボール体操をしましょう。」 ○跳ねたり止まったりする。 ○膝を曲げたり伸ばしたりする。 ○バランスボールを持って、左右に動かす。 ○速く跳ねたり遅く跳ねたりする。 ◎「やらない」と言ったり、フリーズしたりする。 □「一緒にやろう」と誘い、手をつないで行う。 *身体の部位を意識して身体を動かすことができる。 ※難しい時は、動かす部位を触って意識させる。</p> <div data-bbox="331 504 785 743" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>事例のポイント② 身体を動かしたり、教員と関わったりする好きな活動から始め、授業に対して自信をもつことができる。</p> </div> <div data-bbox="798 504 1149 743" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>事例のポイント⑤ 動画配信を利用し、活動の手本をICT機器に頼り、教員が支援できるようにする。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="399 743 785 1115" style="text-align: center;"> <p>①</p>  </div> <div data-bbox="785 743 1157 1115" style="text-align: center;"> <p>②</p>  </div> </div>	<p>① 草加かがやき特別支援学校動画 「バランスボール体操」 http://kagayaki-sh.spec.ed.jp/ 自立活動</p> <p>② 埼玉県立総合教育センター 「学びの準備体操/こことからだ 姿勢が良くなる方法」 https://sites.google.com/center.spec.ed.jp</p>
<p>15分</p>	<p>3 聞く力のトレーニングをする。 【おとはいくつ】</p>	<p>□「聞こえてくる楽器の音の数だけ、○を書きましょう。」 ○CDから出る楽器の音（カスタネット・トライアングル）から、カスタネットの音だけの数を数える。 ◎CDから出る楽器の音を選別することはできるが、耳だけで記憶すると思われる。 □カスタネットの音に合わせて指折りをし、正しく数えられていることが自分でもわかるように促す。</p> <div data-bbox="502 1518 1053 2049" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">おとは いくつ【例】</p> <p style="text-align: center;">カスタネットの おとの かすだけ すきないろで ○を ぬりましょう。</p> <p>① <input type="text" value="○○○○○ ○○○○○"/></p> <p>② <input type="text" value="○○○○○ ○○○○○"/></p> <p>③ <input type="text" value="○○○○○ ○○○○○"/></p> <p style="text-align: center;">⋮ ⋮ ⋮</p> </div>	<p>【参考】 和田秀樹・村山裕成(2006)きくきくドリル 文英堂</p> <div data-bbox="1085 1444 1452 1691" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>事例のポイント③ 得意な活動を自分の力で行うことで、達成感や満足感を得ることができる。</p> </div>

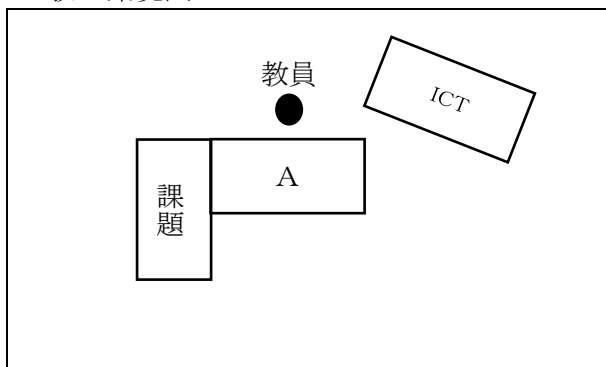
		<p>□「横に読むのと、縦に読むのと、どちらが読みやすい？」と質問をする。</p> <p>◎どちらも自分ではできると答える。教員が「横の方が合っている。」と伝えると、「たしかに」と言うと思われる。</p> <p>□「横に書いてある単語は、自分で見つけられたね。」と言葉かけをする。</p>	<p>事例のポイント④ 自分に合った方法を受け止め、自己理解を促すことができる。</p>
2分	5 振り返り 挨拶	<p>□今日の活動を振り返りましょう。</p> <p>○スケジュールボードの活動ごとに◎、○、△を記入し、自己評価をする。</p> <p>◎どの活動も「◎」と記入すると思われる。</p> <p>□「身体のトレーニングは、先生と一緒にだと正しくできたね。」「聞く力のトレーニングは、自分の力で正しく数えることができたね。」「見る力のトレーニングは、横に読むことが得意なことがわかり、文字量を減らしたり指で追ったりすると間違えないでできたね。」と伝え、「全部がんばって、素敵です。」と本生徒が一番好きな言葉を伝える。</p>	<p>事例のポイント③ 生徒が一番好きな言葉かけを行い、達成感や満足感を得ることができる。</p>

7 本時の評価

- ・身体のトレーニングでは、手本を見て、できる動きは自分で取り組み、難しい動きは教員と一緒に取り組むことができたか。
- ・聞く力のトレーニングでは、自分で音の数を正しく数えることができるよう、工夫しながら取り組むことができたか。
- ・見る力のトレーニングでは、自分はどのような読み方や道具があれば読みやすいかを受け入れながら、取り組むことができたか。

8 備考

- ・教室環境図



参考

自立活動の授業づくり（流れ図）

事例のポイント①

流れ図を作成することで、つまずきの背景に迫る活動を設定することができる。

生徒名	学年	作成者
〇〇 〇〇	第2学年	〇〇 〇〇

計画（PLAN）

実態把握① 情報収集 実態把握②-1 情報の整理	
1 健康の保持 (日常生活面、健康面など) (追加)	<ul style="list-style-type: none"> ・着脱や食事、排泄など身辺自立は、自立している。 ・服の種類に合わせて上手にたたむことができる。
2 心理的な安定 (情緒面、状況の理解など) (追加)	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいことや急な変更が苦手なため、あらかじめスケジュールを伝えたり、事前に練習をしたりすることで、安心して取り組むことができる。 ・慣れた人に対しては積極的に関わるが、慣れていない人に対しては、消極的になることが多い。教員が代弁したり、関わり方の手本を示したりするようにしている。
3 人間関係の形成 (人とのかかわり、集団への参加など) (追加)	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手な活動や失敗した経験のある活動に対して、自信がもてず、行動することにためらいがちになり、固まってしまうことがある。 ・個別でのやりとりでは積極的に関わるが、集団になるとためらいがちになる。教員がそばについて手順や決まりを示したり、手本となる生徒と組んで活動したりすることで、参加することができる。
4 環境の把握 (感覚の活用、認知面、学習面など) (追加)	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板の文字を写すことに時間がかかるため、写す量を減らしたり、時間を多く設けたりすることで、正しく書き写すことができる。 ・全体的に体の動かし方がぎこちない。ぶつかったり、転んだりしてしまいがちである。
5 身体の動き (運動・動作、作業面など) (追加)	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンスやマラソンが得意であり、好んで活動している。 ・ボールを受け取ることが難しく、球技全般苦手である。 ・ボディイメージの乏しさから、他者との距離が近すぎることもある。 ・制服のボタンを閉めたり、リボンを結んだりすることに時間がかかる。
6 コミュニケーション (意思の伝達、言語の形成など)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを書いたり、伝えたりすることができる。 ・たくさんの言葉を知っている。知らない言葉は、「この言葉はどういう意味？」と質問することができる。かみ砕いて説明することで、理解することができる。 ・本人の言いたいことを整理し、伝え方の手本を示したり、安心して伝えられる場を積み重ねたりす

	ることで、適切に伝えることができる。
(追加)	
7 その他 (性格、行動特徴、興味関心など)	・障害特性から疲労しやすいが、真面目な性格のため、がんばりすぎてしまう。そのため、家庭の協力を仰ぎ、休養をこまめに入れてもらい、学校には毎日通うことができている。
(追加)	

実態把握②-2 生徒の学習上又は生活上の課題や、これまでの学習状況の把握	
<ul style="list-style-type: none"> ・身体の動かし方がぎこちなく、よくぶつかったり、転んだりしている。 ・ボディイメージが乏しく、他者との距離が近すぎるが多い。 ・制服のボタンを閉めたり、リボンを結んだりすることに時間がかかる。 ・音読では文字を読み飛ばしたり、行を飛ばしたりして読むことがある。 ・黒板の文字を写すことに時間がかかる。 ・ボールを受け取ることが難しい。 	

実態把握②-3 生徒の3年後の将来像	
<ul style="list-style-type: none"> ・手本を見て理解し、自分で取り組むようになってほしい。(心) ・自分の苦手なところを受け入れたり、認めたりすることができるようになってほしい。(コ) ・別の方法や代替手段を活用しながら、苦手を克服できる力を身に付けてほしい。(コ) 	

指導すべき課題の整理③ 課題の抽出	
<ul style="list-style-type: none"> ・身体を動かすことは好きだが、動かし方がぎこちない。(身・環) ・得意な課題であれば、自分で誤りに気付いて修正することができる。(人・コ) ・苦手な課題であっても、教員と一緒にあれば、別の方法や代替手段を受け入れることができる。(環・コ) 	

指導すべき課題の整理④ 中心的な課題	
中心的な課題	背景
① 微細運動が苦手である。	ボディイメージの乏しさ
② 音読の読み飛ばしがある。	眼の動きの乏しさ

指導目標の設定⑤	
① 粗大運動を十分に行うことで、ボディイメージを獲得し、微細運動を高めていく。	
② 跳躍性眼球運動のトレーニングを行うことで、視線をスムーズに動かす力を高めていく。	

項目の選定・指導内容の設定

区分	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(1)	生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	情緒の安定に関する事	他者とのかかわりの基礎に関する事	保有する感覚の活用に関する事	姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	コミュニケーションの基礎的能力に関する事
(2)	病気の状態や理解と生活管理に関する事	状況の理解と変化への対応に関する事	他者の意図や感情の理解に関する事	感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事	姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事	言語の需要と表出に関する事
(3)	身体各部の状態の理解と養護に関する事	障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する	自己の理解と行動の調整に関する事	感覚の補助及び代行手段の活用に関する事	日常生活に必要な基本動作に関する事	言語の形成と活用に関する事

		意欲に関する こと				
(4)	障害の特性の 理解と生活環 境の調整に関 すること		集団への参加 の基礎に関す ること	感覚を総合的に活 用した周囲の状況 についての把握と 状況に応じた行動 に関すること	身体の移動能 力に関するこ と	コミュニケー ション手段の 選択と活用に関 すること
(5)	健康状態の維 持・改善に関 すること			認知や行動の 手掛かりとな る概念の形成 に関すること	作業に必要な 動作と円滑な 遂行に関する こと	状況に応じた コミュニケーションに関す ること
Key words			補助具の受け 入れ	眼球運動のぎこ ちなさ	身体のぎこち なさ ボディイメー ジの乏しさ	

指導内容	粗大運動を通して、ボデ イイメージを高める。	自分の得意なことを理解 し、自己肯定感を高め、 活動の意欲を高める。	ビジョントレーニング を通して、視線をスム ーズに移動することが できるようにする。 自分に合った方法を理 解し、自己決定できる ようにする。
指導場面	身体のトレーニング	聞く力のトレーニング	見る力のトレーニング

項目と項目を関係付ける際のポイント

① ボール運動でボールをキャッチしたり、相手に投げたりすることで、視線を移動させる活動に取り組むことで、目の動きの乏しさを高めていくことができるようにする。
② 得意なことと苦手なことを受け止め、自己理解を深めて心理的な安定を図ることで、人間関係の形成を円滑にできるようにする。